

「生活支援コーディネーター[※] 及び協議体の選出」

※生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を
本資料ではSCと略して記載しています

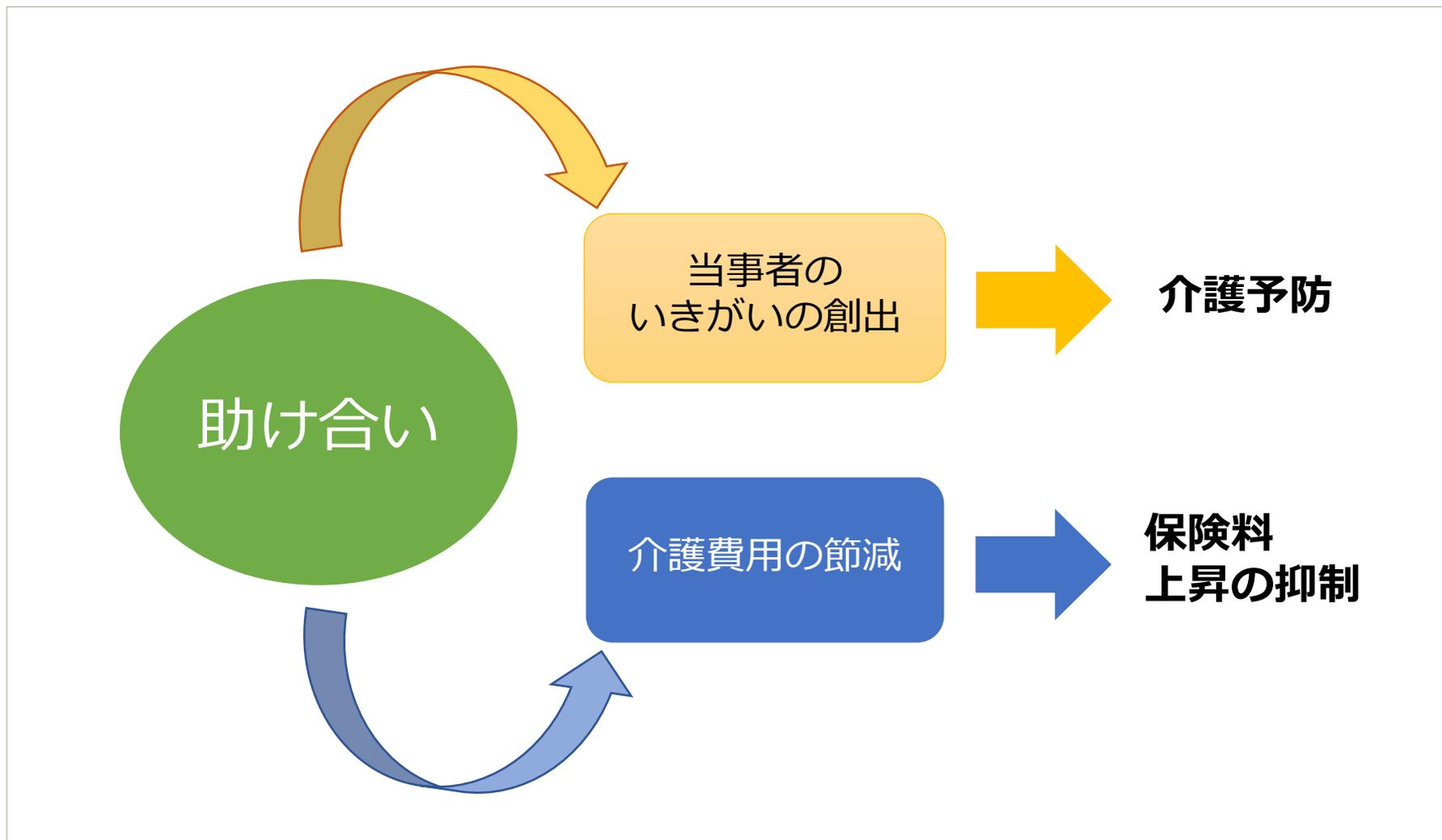
取り組みの手順は地域によって様々で、本資料は
その特徴を解説することを目的としたものです。

公益財団法人さわやか福祉財団

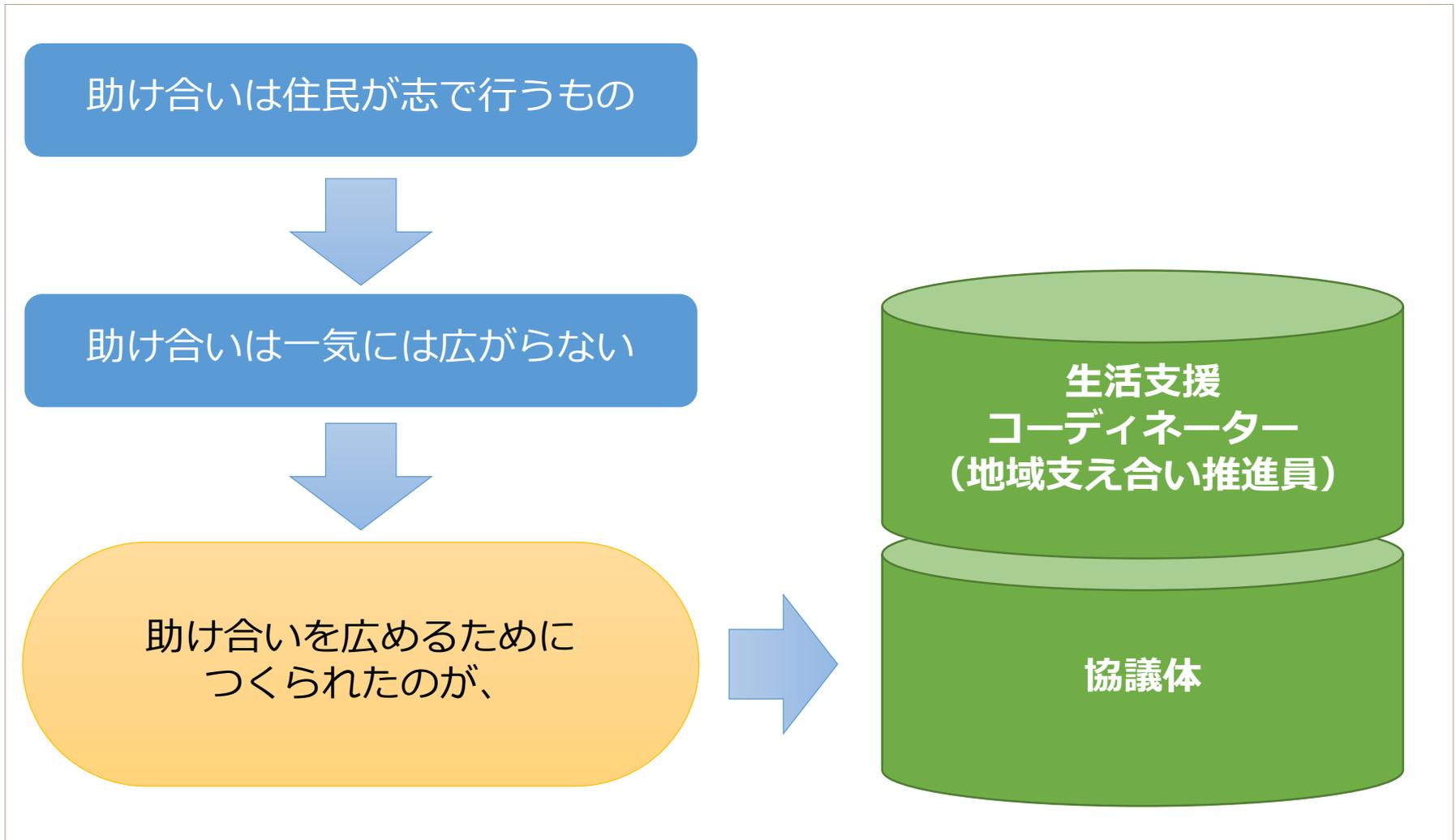


SC及び協議体の任務

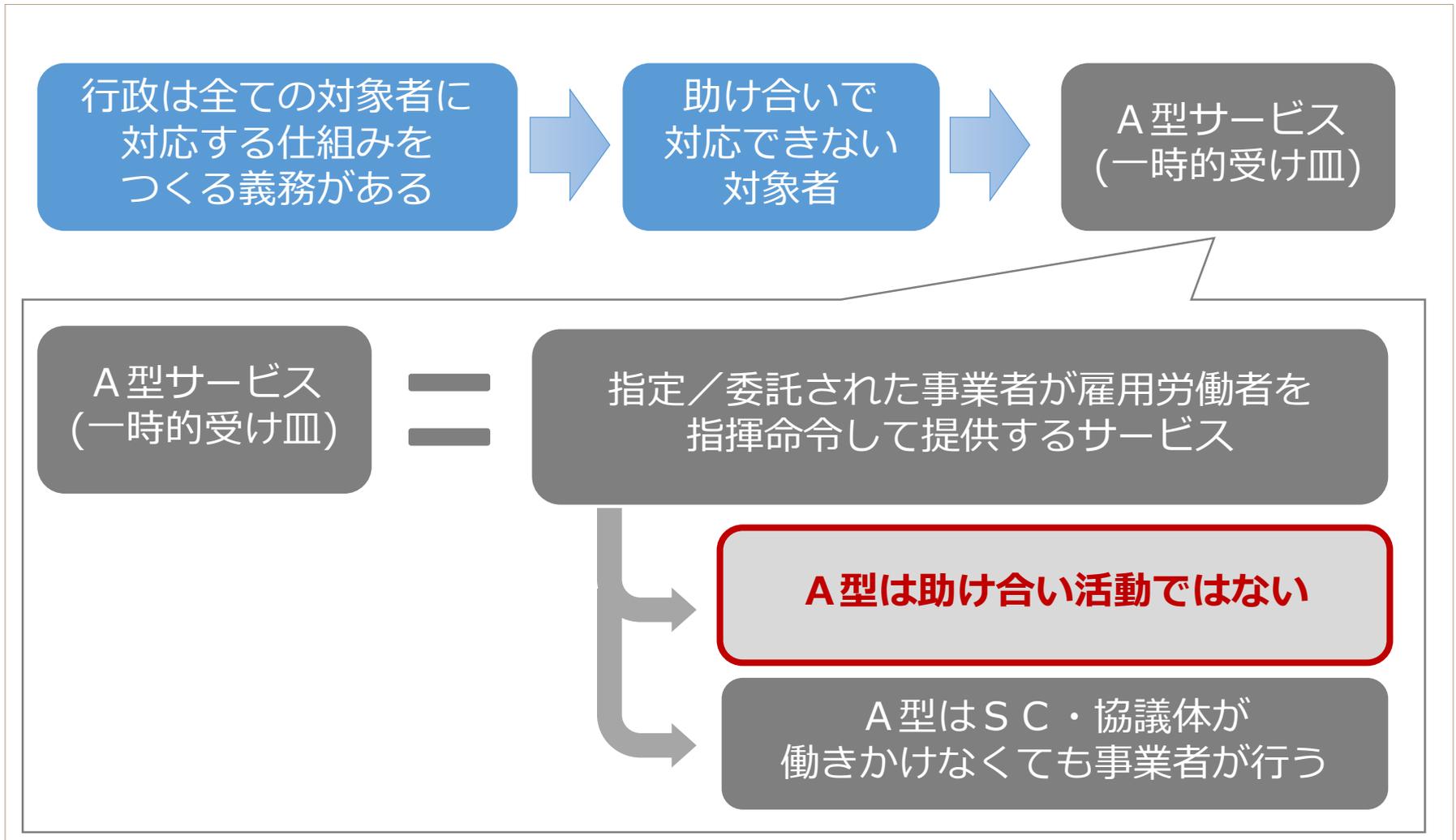
1. 助け合いを広める効果



2. SC・協議体の任務は助け合いを広めること



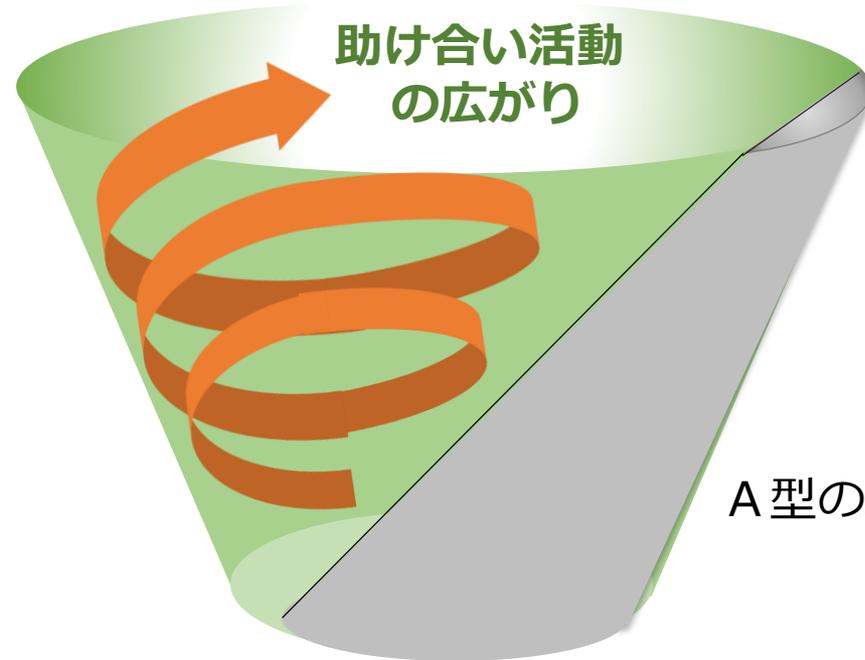
3. A型は助け合い活動ではない



4. 助け合い活動伸長のあり方

未 来

目指す地域像の実現



現 在

SC及び協議体の選出モデル

目指す地域像の実現に向けて

「SC及び協議体の選出とそのモデル」

■ ベストプラクティス

- ▶ 以前から住民主体の活動に取り組んでおり住民との信頼関係ができています
- ▶ 地域づくりを推進できる幅広い分野の人材がわかっている

■ 多数派(多くの市町村)

- ▶ 住民主体の活動が根付いていない
- ▶ 地域のキーパーソンが想定しづらい

※2 : P.8~11を参照

人口規模の
大きい
自治体

大づかみ方式による人選 ※1

比較的規模の大きい自治体では行政から地縁組織やNPO等の分野ごとにキーパーソンに成り得る人材に向けた声かけを実施する

※1 : P.6~7を参照

人口規模の
小さい
自治体

全戸周知方式による人選

規模が小さい(2万人以下程度)の自治体では、できるだけ多くの住民に呼びかけが適切な協議体とSCの人選を念頭に勉強会を何度か開催する

※2
全体勉強会の開催
(3回程度)

協議体構成員の確定

SCの選出

R20150316 公益財団法人さわやか福祉財団

○ 大づかみ方式の基本原則

1： 地域の実情に応じて、足りないサービスで創出すべきものの分野を決める

サービス分野の決定は、関係者によるワークショップをベースに「あるべき地域像」を確定し、助け合いの足りない分野を浮き上がらせることによって行う。
分野が決まれば下記の2に進む。

2： サービス分野ごとに、助け合い活動の創出、活性化をリードできるような人物を選ぶ

人選の手順については、次シート（P.7）で解説

○ 大づかみ方式の人選の手順

① リードする人物（※1）がわかっている時

できれば重要な関係者に確認したうえで、その人物を選ぶ

（※1）リードする人物とは、その分野の関係者等から信頼されている等、助け合い活動の創出、活性化をリードする人物

② リードする人物がわからない時

ア. 連合会、ネットワーク組織等があれば、その代表者に相談する

イ. それがない時は、主だった団体の代表者に相談する

当該分野に関連する分野の人物が情報を有している場合があるので、関係分野の人物が集まった会議等で協議することも有効

③ ②の手段では適切な人物が選べない時

当該分野の関係者を集めて非公式の勉強会を開き、その分野の資源開発をリード

できそうな人物を選ぶ（地縁活動については、この方式が求められる地域が少なくないと思われる）（※2）

（※2） ②の手段でリードできる人物が選べなかった場合について、都市の規模が大きいこと、あるいは選出までに時間的余裕がないこと等の理由により③の手段をとるのが難しい時は、これを割愛して④の手段に入る

④ ③の手段でも選べない時

この分野での参加者を保留にしつつ、企業OB・OG、社協OB・OG等で、その分野の資源開発ができそうな人物を関係者が協力して選ぶ

④の手段をとる余裕もない時は、その分野の既存組織の代表者を暫定的に選出する

○ 全体勉強会のテーマと資料（一例） 【第1回】

テーマ	この地域をどんな助け合いのある地域にするか
共通の理解を持つべき基本的事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助け合い活動を創出するには、関係者が目指す地域像を共通の目標としてイメージしなければならない（規範的統合） 2. 目指す地域像は、地域住民のほとんどが受け入れるものでなくてはならない（住民の共感） 3. 目指す地域の具体像は、幅（助け合いの量）、深さ（助け合いの質）ともに、参加する関係者の広がりや、関係者の意識の進化に伴って成熟していくものである（変動・進化性） 4. 目指す地域像は、具体像は、それぞれの地域によって異なるが、その要素としては全国共通のものが少なくない
全国共通の要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もがいつでも気軽に集まる場所があり、日常的な助け合いが行われている ・ 地縁組織が、幅広く随時対応の助け合いを行っている ・ NPO等が、地縁組織ではやれていないテーマ型（家事援助、移動、配食など）の助け合いを行っている ・ 地縁組織とNPO等が、ネットワークを組み、必要なサービスを提供している

○ 全体勉強会のテーマと資料（一例） 【第1回】

協議する
事項

あなたの大づかみな感覚では、あなたの地域には、どんな助け合いが足りないと思うか。また、あなたがその助け合い活動を欲しいと思うのは、あなたがその地域をどんな地域にしたいと思うからなのか

まとめ

共通意見を、大まかな図面にまとめる
(2回目以降の勉強会で共有するため)

教材

助け合い活動創出ブックの「1.目指す地域像」
及び 「2-1.足りない活動の把握」(P.4～15)

注意事項

- ・協議に当たっては、人の意見を批判せず、建設的に意見を述べる

○ 全体勉強会のテーマと資料（一例） 【第2回】

テーマ	生活支援コーディネーター（SC）や協議体構成員は何をするのか （基本的な共通理解事項）
任務	助け合い活動の創出とネットワーク化 (注) A型サービスは、対象ではない (P.3)
具体的には	1. 任務を果たすための基盤づくり 2. ニーズの把握と担い手の掘り起こし、コーディネート → 求められている助け合い活動の創出とネットワーク化
理解すべき事項	ニーズの把握や担い手の掘り起こしのためには住民の中に入ってよく意向を聴取し、共助の意欲を引き出す必要がある。また、助け合い活動を創出し、そのネットワークをつくるには、多様な住民や市民活動者の信頼が必要であり、したがって肩書き（権威）や理屈だけで遂行できる任務ではないこと
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ さわやか福祉財団テキスト「A型をどう考えるか」 ・ さわやか福祉財団テキスト「生活支援コーディネーター及び協議体の選出」

○ 全体勉強会のテーマと資料（一例） 【第3回】

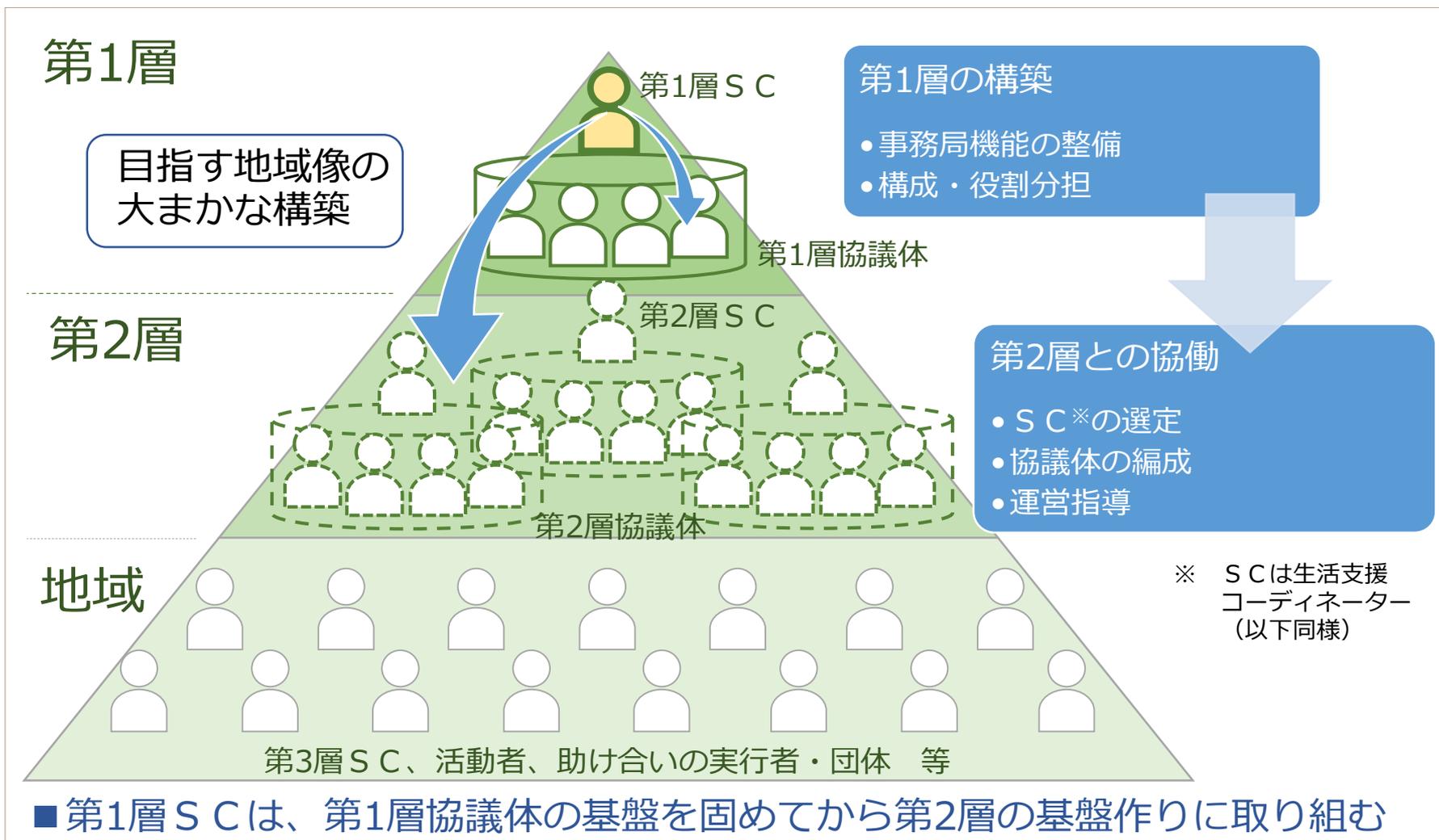
テーマ	この地域を目指す地域にしていくには、どんな人を協議体構成員に選ぶのがよいか（協議）
選定方法についての協議	<ol style="list-style-type: none"> 1. さわやか福祉財団テキスト「生活支援コーディネーター及び協議体の選出」により選定方法のモデルを学習、自分の地域には<u>どの方式が望ましいか</u>を協議する 2. ベストプラクティスの場合は、わかっているSC及び協議体構成員を書き出し、全員で確認する。足りない分野があればそれも確認し、その分野の選定方法を協議する 3. 全戸周知方式を相当とする時は、その実施方法を協議する 4. 大づかみ方式を相当とする時は、第1回勉強会のまとめ図を参考にして、足りない分野を協議。その分野について担当構成員を置くか否か、置かない分野はどう扱うか（分科会にするのか、協議体参考人にするのか等）について協議。さらに、各分野について、テキストを参考に、可能な限り具体化するように協議。望ましい人物像もなるべく具体的に記述する

まとめ

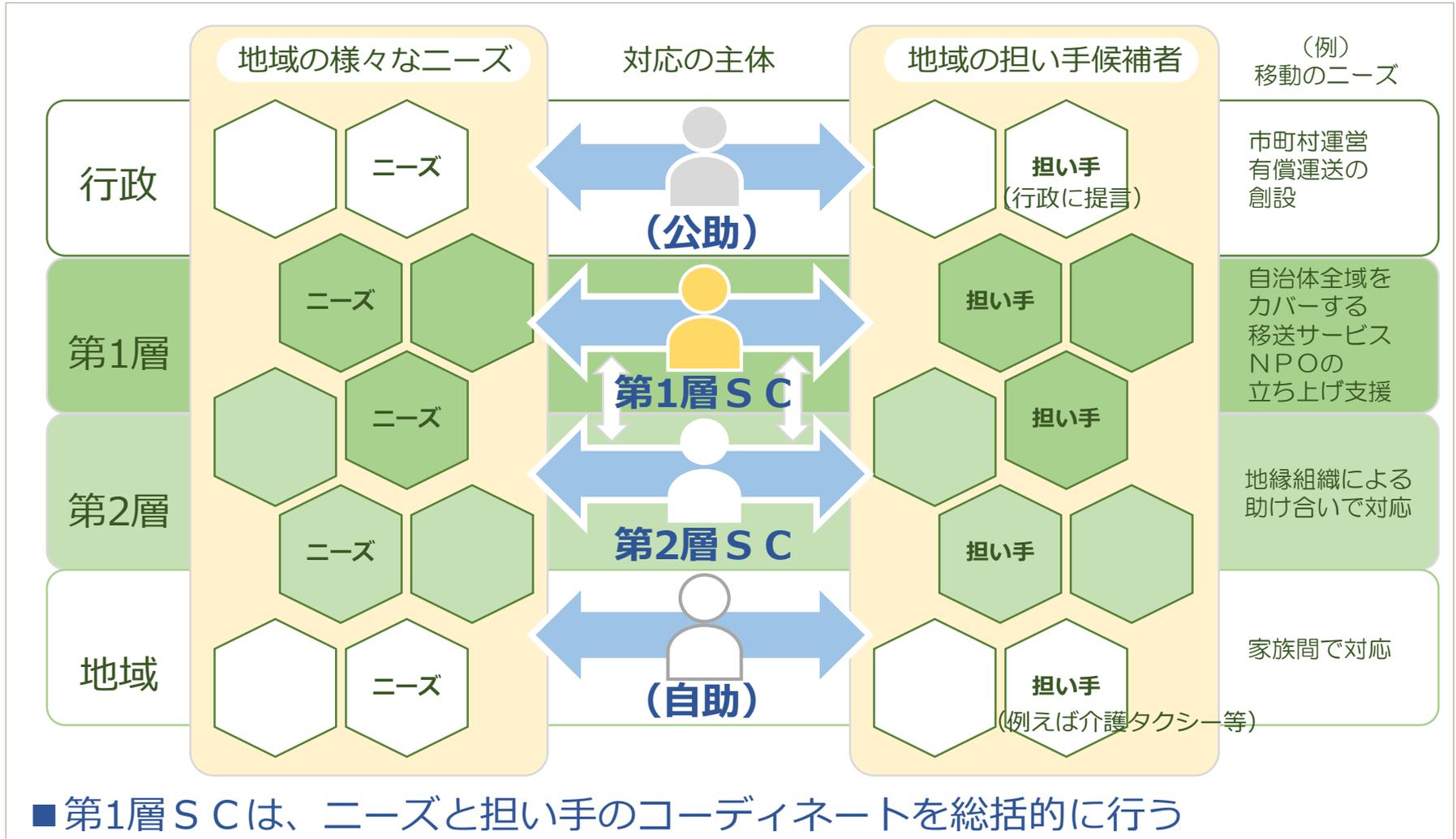
要旨をまとめて、選定責任者に提出すると共に、選定関係者でまとめた要旨を共有することが望まれる

SC及び協議体の役割

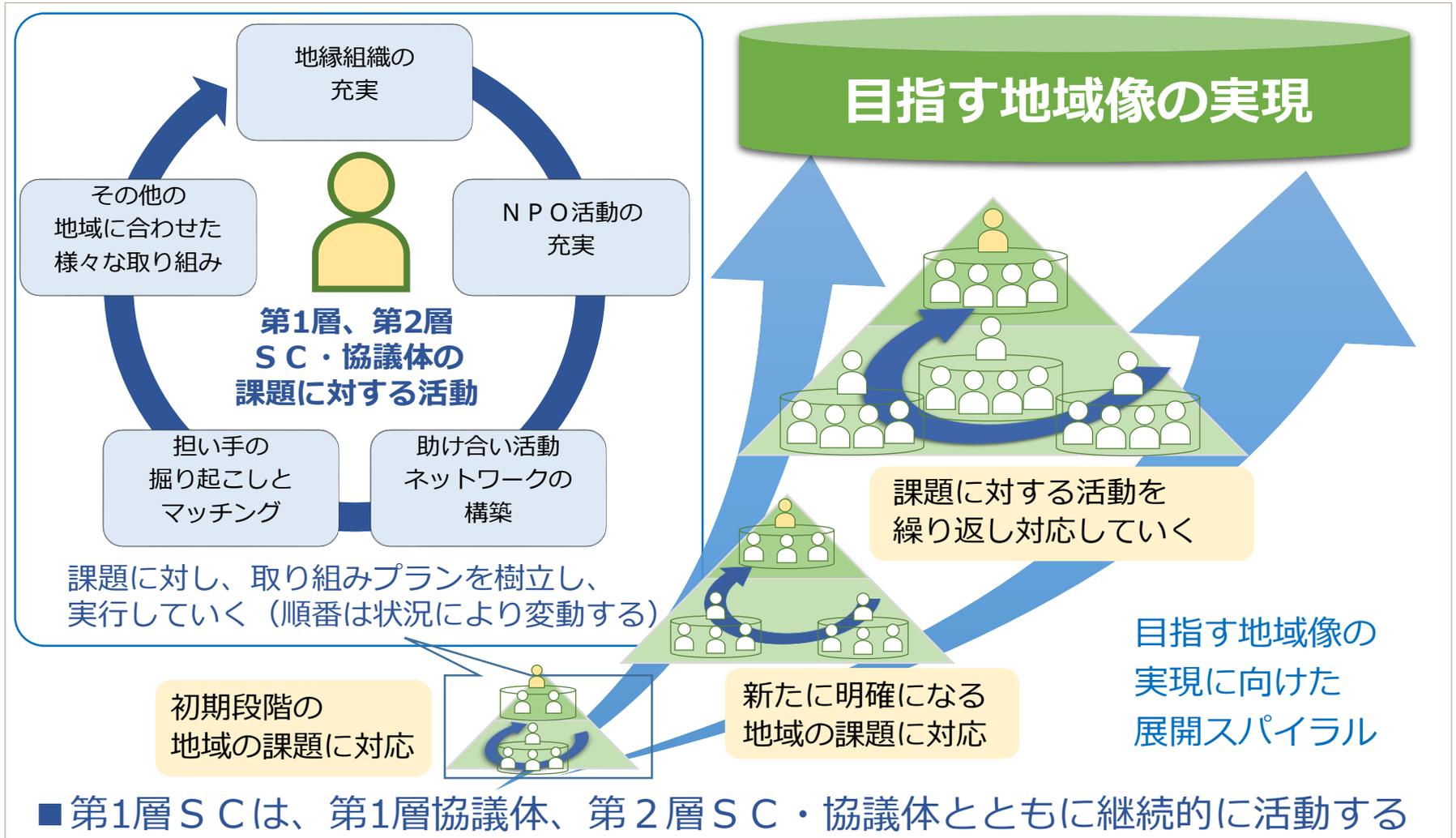
ステップ①：第1・2層協議体の基盤作り



ステップ②：ニーズと担い手の掘り起こし、コーディネート



ステップ③：SC・協議体による地域の課題解決



第2層協議体の選出

ケース1：第1層SC※が第2層協議体構成員を選出する場合

1. 第2層の圏域を検討する

※ SCは生活支援コーディネーター（以下同様）

助け合いの視点から区域を設定する

検討例として

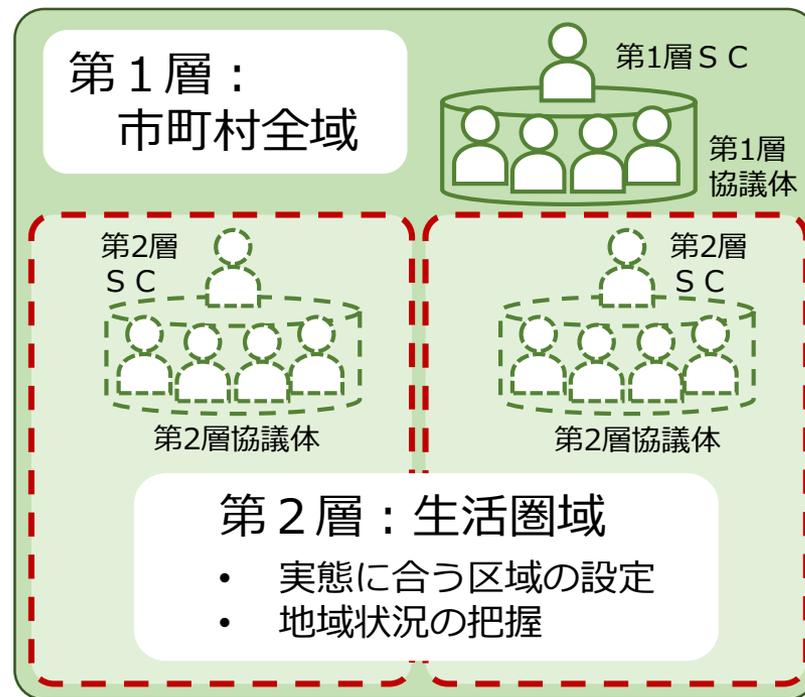
- 生活圏が共通しているか
(創出すべき助け合い活動の
特徴が共通している 等)
- 助ける人が歩いて通えるか

2. 地域の現状を把握する

既存の活動を把握し、

それらを活かした足りないサービスの創出を意識する

- 既存の活動は登録されていないものもあるのでしっかり把握する



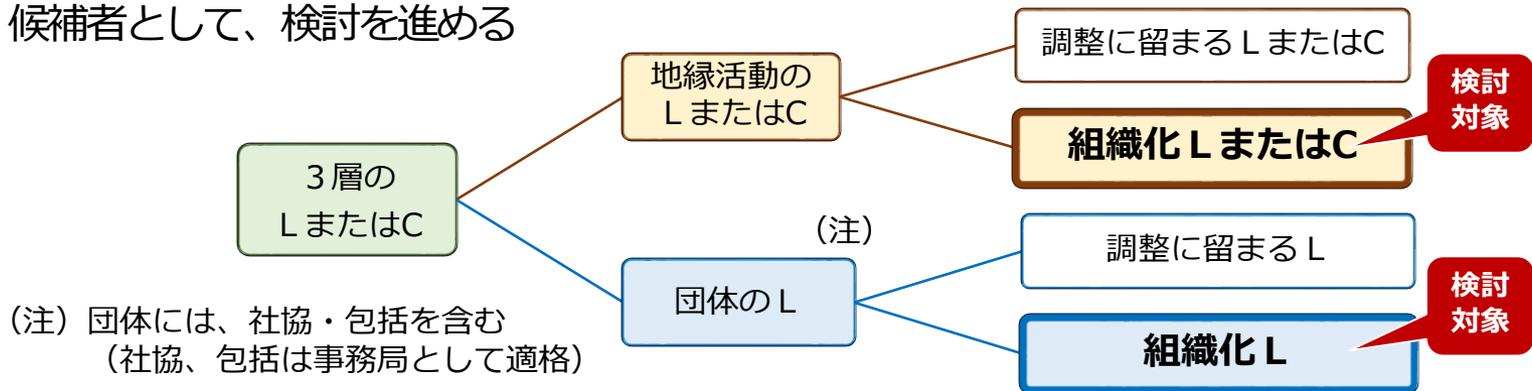
ケース1：第1層SCが第2層協議体構成員を選出する場合（続き）

3. 第2層協議体構成員とSCの選出

※ Cはコーディネーター
Lはリーダー（以下同様）

① 第3層で行われる助け合い活動のリーダー（L） またはコーディネーター（C）

- 第3層の助け合い活動にはLやCがいるが、「単なる調整役としてのLまたはC」ではなく、それらの人物のうちから「助け合いの組織化を推進するLまたはC」を候補者として、検討を進める



② 基本原則（大づかみ）により選出する

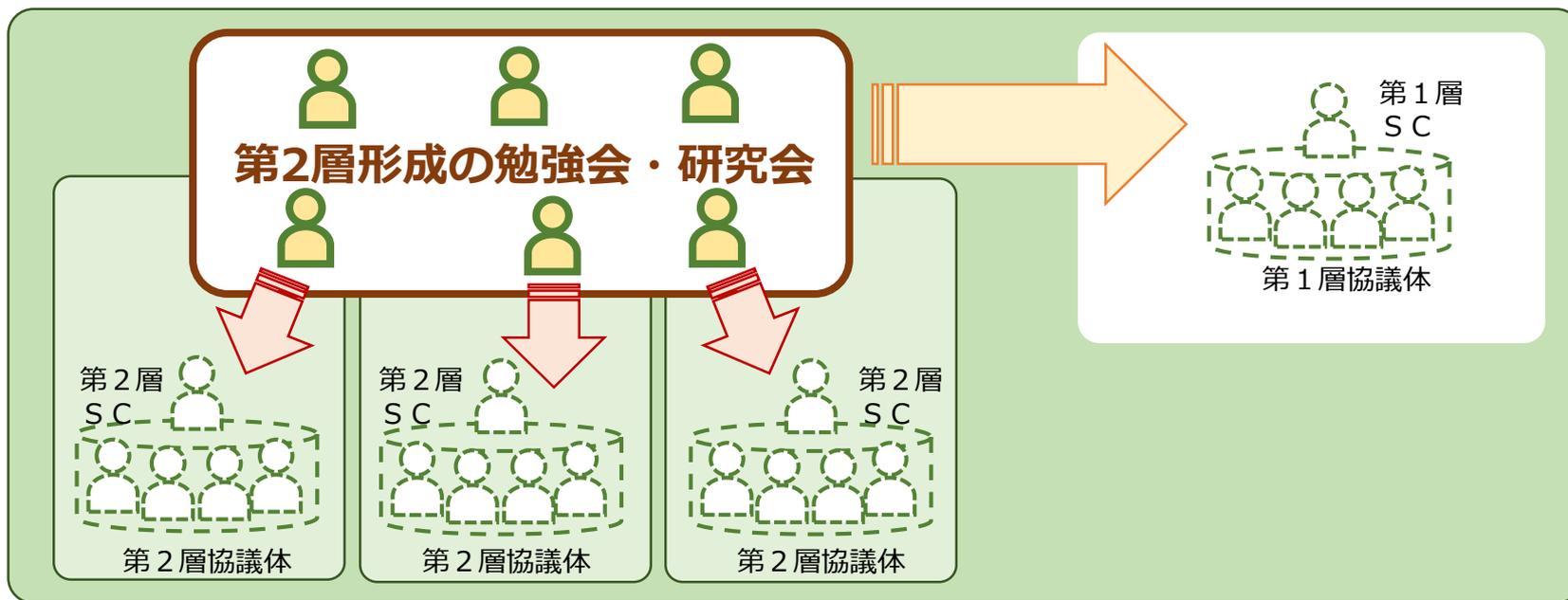
- ただし、1層協議体の構成員の中から基本原則による選定をまず行ってみる

ケース2：第1層が無く、第2層から編成する場合

1. 協議体・SCの選出原理は1層と同じ

原則（大づかみ）で第2層形成の勉強会・研究会を開催する

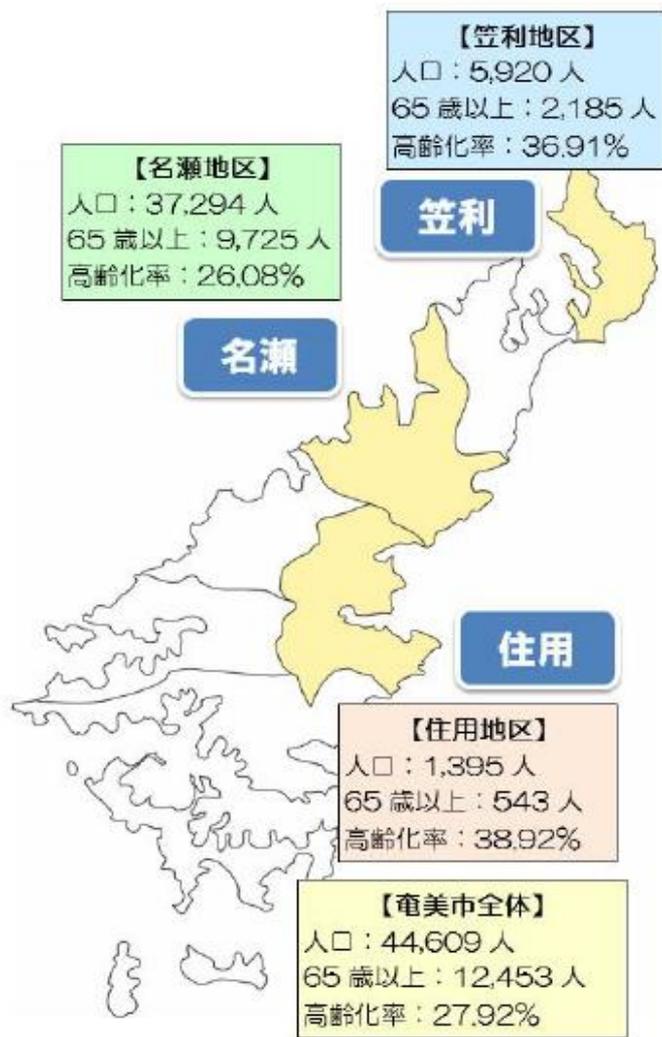
- 2層区域ごとに研究会をするのではなく、全域にわたって合同して行うことも可
- 全域にわたる研究会は、あわせて1層形成の研究会にもなる



他市町村の事例



鹿児島県奄美市(大づかみ方式にて選出)



介護保険認定率
平成26年12月
22.6%(県20.5%)
地域包括支援センター
(直営)3ヶ所
在宅介護支援センター
7ヶ所



※人口：平成27年3月31日時点

基礎資料：住民基本台帳(各年10月1日時点)

奄美市の状況

- ・名瀬地区において、自治会設置率が低い(特に、市街地)
- ・市街地は、隣近所とのつながりが薄い
- ・人口減少、一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯増加、子ども達は島外居住多い ⇒ キーパソンが身近にいない人も多い
- ・団地での高齢化、一人暮らしの孤独死
- ・要支援1,2の介護保険認定者(33.3%)サービス利用が多い
- ・第6期介護保険料は県内でも高い
- ・核家族が多く、共働きの家庭も多い
- ・子育て支援が必要な親子も多い・・・等々

いいところ

- ・地域での民生委員の積極的な活動
- ・地域の状況を気にして動いてくれる方もいる
- ・団塊の世代で元気な方も多い
- ・地域によっては集落の助け合いができている所もある(結いの精神の継承)

総合事業、生活支援体制整備事業、認知症対策等も、全てつながっていく

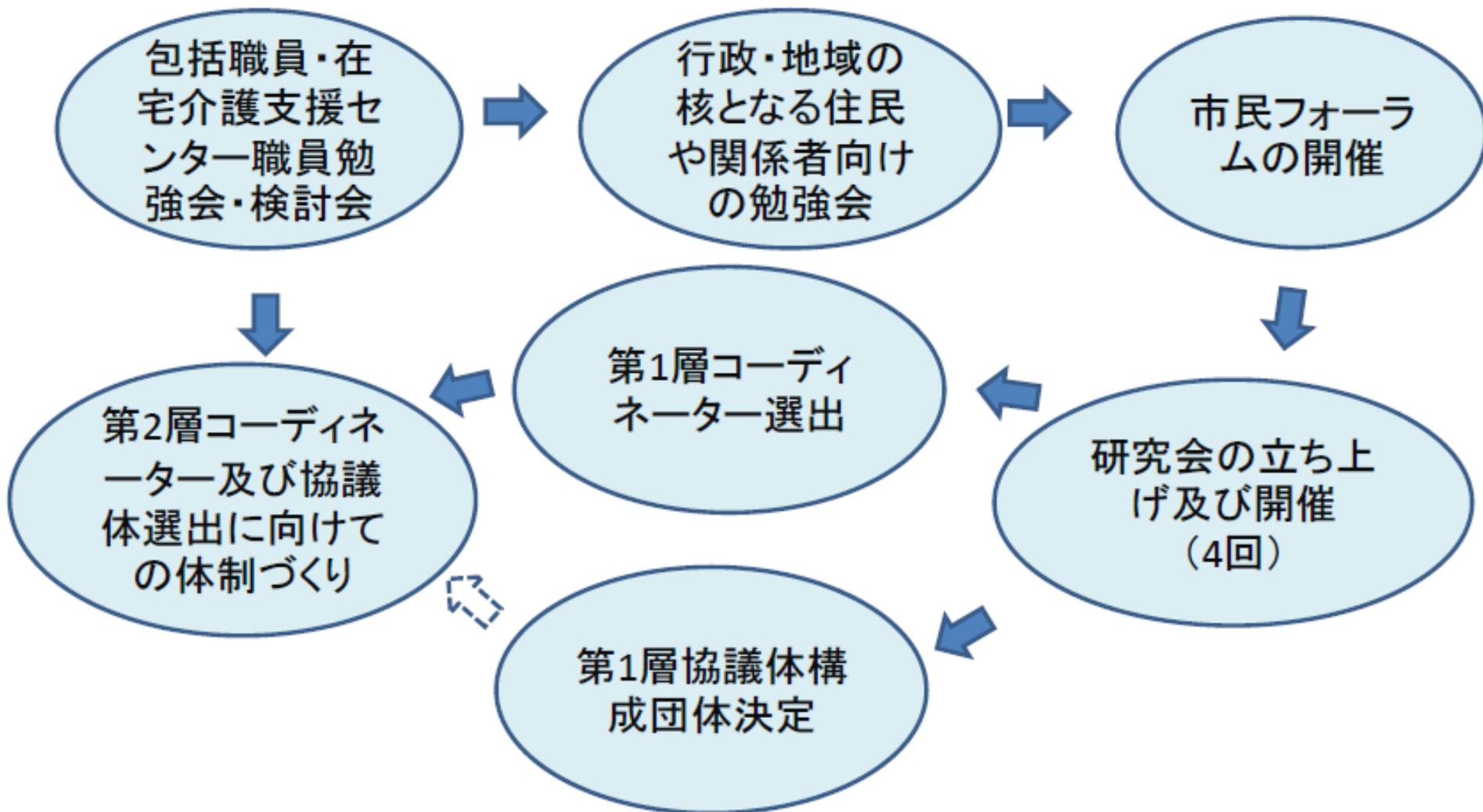
- ・事業展開をしていくためには、1人の担当職員だけでは、負担が大きい
- ・職場の仲間の理解、市役所の関係各課や関係団体の理解・協力が必要。

そして、何よりも住民の理解は、不可欠



- ・地域での支え合い体制の必要性について
⇒住民への理解をすすめるとともに、**住民と一緒に**地域を見直し、地域に必要な資源を考えていく。
(住民の理解や資源づくりには、時間がかかる)

奄美市における第1層コーディネーター選出及び第1層協議体設立までの経緯



①研究会としての立ち上げ及び実施状況

「地域支え合い体制づくりを考える会」

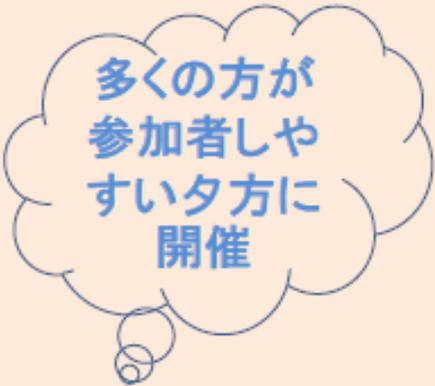
として研究会を立ち上げる。

目的：地域住民や行政、関係者が一緒になり地域での支え合い体制の理解を深めながら、第1層の協議体や生活支援コーディネーター選出を目的として開催する。

開催日程

- 第1回：平成27年6月29日 18:30～20:30
- 第2回：7月27日 18:30～20:30
- 第3回：8月13日 18:30～20:30
- 第4回：10月14日 18:30～20:30

◇開催前には、各支所の包括職員、在宅介護支援センター職員を含めた打ち合わせの実施



多くの方が
参加者しや
すい夕方に
開催

コーディネーター及び協議体委員委嘱状交付



第1層協議体、第1層コーディネーター、
第2層コーディネーターと協力しながら今後の地域
での体制づくりを行っていきます。

第2層の体制づくりについて

○名瀬地区協議体6ヶ所設置予定・・

3地区コーディネーター決定し、コーディネーターと包括地区担当、在宅介護支援センターと一緒に地域での話し合いを進めている

○笠利地区1ヶ所設置予定・・

1地区コーディネーター及び協議体構成員決定

○住用地区1ヶ所設置予定・・

コーディネーター未。包括が主になり、地域の主な方々に参加してもらい話し合いを行っている。

★第1層コーディネーターは、第2層の住民向けの話し合いへ出席し、体制整備の必要性について説明を行っている

※以前から住民主体で取り組みを始めている地域

これからは市民が主役！ 暮らしのサポートセンターの必要性



りんどう



ゆめはな



しらみず



あけぼの

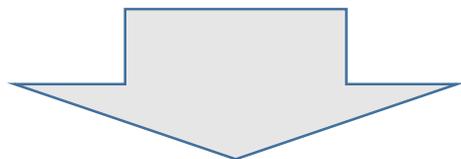


又又土成

竹田市経済活性化促進協議会
活性化推進室 事業支援員 高木 佳奈枝

1) 暮らしのサポートセンター整備事業開始までの背景

- ・独居高齢者や高齢者世帯の増加(高齢化率43%)
- ・道普請などの地区行事や家周りの環境整備などお困りごとの増加
- ・ボランティアで支援を受けた後の謝礼等の不明確さ
- ・交通弱者の増加(通院、買い物)
- ・地域のコミュニティの疲弊



- ・定期的に活動(支援)する人材の必要性～セミナー開催による住民の「気づき」が大事
- ・有償ボランティアの導入(活用)
- ・組織の形成～住民が集う場所(居場所)づくりが必要
- ・具体的に誰がいつ?どこで?どんな事を?、困っているのか?⇒ニーズ調査の必要性

暮らしのサポートセンター整備事業（H23～H27）

「住民同士で支え合う仕組みづくり」

①人材育成

②組織立上

③実証実験

人材育成セミナーの開催



①暮らしのサポーター養成セミナー（基礎編）

②竹田西部地域を考える会（設立準備会）

③西部地域生活課題実態調査

意識の向上

- ・生活課題実態調査
- ・課題, 要望の把握
- ・有償サービスのメニュー化

将来的

竹田市暮らしのサポートセンター

りんどう ゆのはな しらみず あげぼの 双城 西部・東部

暮らしのサポーター

暮らしのサポートセンター



会員 年会費 1,000円(活動会員・賛助会員・利用会員)

生活支援サービス

食事の準備・後片付け・掃除・洗濯
整理整頓・買い物・ゴミだし
外出支援・見守り・話し相手
家周りの環境整備・趣味活動の支援
簡単な家内での修理・修繕
手続き代行・代筆 など

30分:400円

＜関係する組織・団体＞

- ・竹田市経済活性化促進協議会（竹田市, 竹田市社会福祉協議会, 竹田市医師会, 竹田商工会議所, 九州アルプス商工会, 観光ツーリズム協会, 里山保全竹活用百人会, 農村回帰支援センター8組織で構成）
- ・介護施設、事業所・地区社協
- ・地域包括支援センター
- ・市役所各支所・自治会・PTA
- ・老人クラブ・食推協・駐在所など



＜自治会・隣保班＞

サービス提供

寄り合い場

ニーズ把握

寄り合い場

高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けられるために!!

生きがい度の向上

医療費・介護保険料の抑制

雇用創出

コミュニティビジネスの展開

街中のにぎわい・経済活性化

2) 養成セミナー開始からサポートセンター立ち上げまでの流れ

①チラシ配布による申込み⇒2～3件程度

②訪問活動による案内⇒参加者の8割～9割参加

一地域当たり70～80件の訪問勧誘

③セミナー開催⇒20回～50回(計312回)

参加者;450人(荻93、直入65、久住107、竹田185) 延2,831人

※アンケート記入による意識の変化(気づきの大切さ)

④〇〇〇を考える会(設立準備会)～15回

⑤生活課題実態調査の実施⇒直入、荻、竹田南部(入田、姫岳、

宮砥)、竹田北部(宮城、城原)

※受講者を中心とした日常生活の実情把握、個別訪問面談による

聞き取り 約40項目

3)課題 喫緊～将来

- ①人材育成の継続⇒後継者となるサポーターの育成(久住平均年齢76歳)
- ②各くらサポをコントロールする本部機能の設置
- ③残期間での人材育成～生活課題実態調査の実施～調査結果の有効活用

竹田西部 計930件

(玉来511件、松本234件、菅生185件)

竹田東部 計1,607件

(竹田608件、(岡本239件、明治225件、豊岡535件)

久住地域 計1,059件

(久住408件、白丹255件、都野396件)

残り3地区合計3,596件

※市並びに関係部署の協力が必要です。



竹田北部地域の高齢化の現状



知って得する介護・福祉の制度



認知症の方もいきいきできる接し方



私はこうして介護していた



楽しく体を動かそう



高齢者の権利擁護について



お口の健康と嚥下について



らくらく介護(体の動かし方)



らくらく介護(清潔と排泄のお世話)



福祉機器の使い方(車いす)



くらサポ「りんどう」見学



命をつなぐ大切な食事

第13回 2月22日(日) 19名



高齢者向けの調理実習

第15回 2月26日(木) 26名



人には言えないおもらし

第14回 2月24日(火) 26名



地域のホームヘルプ&デイ

第16・17回 3月27日(木) 10名



先進地事例(中津市)



誰にでもできるボランティア



普通救命講習



中津沖代「すずめの家」



中津沖代「すずめの家」



すずめの家 交流

安来節演芸



第1回竹田北部地域を考える会



3月10日(火) 24名

- (1) これまでのセミナーの振り返り
 - (2) 生活課題実態調査について
- 生活課題実態調査とは・・地域の人は何を必要としているのか？
- ① 目的と調査内容
 - ② 調査の対象者と調査方法
 - ③ 調査期間
 - ④ 調査結果の分析と活用
- (3) 準備会発足に向けたお世話役について
- 皆さんの意見を反映させ目的を明確にするために
(宮城 名) ・ (城原 名)
- (4) サポートセンター名称について
- 有償サービス拠点施設(くらサポ)の名称について
- (5) その他
- 中津市視察研修について(別紙行程表)

第2回竹田北部地域を考える会



3月17日(火) 17名

- (1) 前回会議の振り返り
 - (2) 設立準備会役員の選考方法について世話人会議より報告
- 準備会役員(代表・副代表)の選考協議
- (3) サポートセンター名称並びに拠点の検討(別紙記入用紙)
 - (4) 会員、調査協力者の募集について
 - (5) その他
- ① 22日(日)中津市実践例のセミナーについて確認
 - ② 中津市視察研修について再確認(別紙行程表、名簿)
 - ③ 調査身分証明書の写真撮影

※アンケート抜粋(原文そのまま)

- ・聞きなれない言葉で年を取った時、こういうシステムがあると助かると思います。少しの時でも出来るなら、**スタッフとして参加してみたいと思います。**
- ・**このセミナーの場が、人と人を繋ぐ場になっていますね、お声かけ有難うございました。**
- ・有償サービスでするとほんとに両方がいいのではないかと思いました。(どちらも気を使わないで)
- ・有償サービスは地域の共通理解、課題の共有、協力が必要不可欠です。**自治会内での学習から始める、そういう機会を作りたいと思います。**
- ・接し方について学んだが、これは認知症の人だけではなく高齢者や家庭や会社、全ての領域応用すべきと思われた。
- ・基本的に相手に対する思いやりの心が必要である。
- ・父が認知症で介護していましたが、その頃は知識がなかったので、いつも怒っていたので・・・今日のような勉強をしていたら心穏やかに話を聞いてあげればよかったなあーと後悔しています。
- ・**あまり進まない気持ちで参加し始めた講義でしたが、終わってみれば皆出席で外仕事のない冬期にいい勉強が出来得をした気分で今日を迎えました。お役に立てる事は少ないと思いますが、沢山の資料を頂き、自分の為の財産となりました。**
- ・**自分の為にと行って来ました。来るからには毎度来ると心に決めてまいりました。何か人の為になる事が出来れば幸いです。色んなことを学びました。ありがとうございました。**
- ・「暮らしのサポーター」の役割、立ち位置、あり方に関する意識が明確に理解出来たセミナー一回となりました。ボランティアではありますが、その前に「人とのつながり」である事を忘れてはいけな

北部「双城」の例(セミナー終了後)

会議名	開催日	場 所	参加者数	備考
第1回 北部を考える会	3月10日	宮城分館	24名	
第2回 北部を考える会	3月17日	〃	17名	
第1回 北部設立準備会	4月 7日	〃	23名	
第2回 北部設立準備会	4月14日	〃	24名	
第3回 「双城」設立準備会	4月30日	〃	28名	
第4回 「双城」設立準備会	5月19日	〃	34名	
第1回 「双城」設立準備会役員会	5月26日	〃	9名	
第5回 「双城」設立準備会	6月 9日	〃	31名	
第2回 「双城」設立準備会役員会	6月16日	〃	9名	
第6回 「双城」設立準備会	6月23日	〃	27名	
第7回 「双城」設立準備会	7月 7日	〃	26名	
竹田北部「双城」設立総会	7月14日	〃		
オープニングセレモニー	〇月〇日	未定		

各くらサポ設立までの経緯

平成24年	9月 6日	くらサポ 第1号 久住「りんどう」設立
平成25年	6月～9月	直入地域生活課題実態調査実施（65歳以上、848／1023人）
	10月 9日	くらサポ 第2号 直入「ゆのはな」設立
平成26年	7月～10月	荻地域生活課題実態調査（75歳以上、585／728人）
	11月 7日	くらサポ 第3号 直入「ゆのはな」設立
平成27年	1月～3月	竹田南部地域生活課題実態調査（541／658人）
	3月25日	くらサポ 第4号 竹田南部「あけぼの」設立
	4月～7月	竹田北部地域生活課題実態調査実施中（470／580人）
	7月14日	くらサポ 第5号 竹田北部「双城」設立予定

※6月21日より竹田西部地域で暮らしのサポーター養成セミナーを実施しており、
7月29日から竹田東部地域でも開催。その後、今年度中には西部・東部地域にも



目指



定。



* 生活支援サービスとは *

- 住民同士の助け合いを基本とし「住み慣れた地域で安心して暮らし続ける」ための活動です。
- 介護保険サービスや、障害者自立支援サービスなど、公的な制度では対応できない「暮らしのちょっと困り」を有償でお手伝いします。
- 「自立支援」の考え方を重視し、既存サービスの隙間を埋められるよう、できる人ができる範囲で活動します。

* どんな事を頼めるの? *

- 食事の準備、掃除洗濯、ごみ出し、見守り・話し相手、買物代行などの家事のお手伝いや、趣味の農作業支援、草刈り、地区行事の代理、病院への付き添いなどの外出支援。
- ご相談に応じて、お手伝いできる範囲で活動します。
- 原則として平日午前9時から午後5時まで対応しますが、時間外はご相談に応じます。



りんどう生活支援サービス実施件数 ～できる人が できる時にできる事を～

支援内容	H24年度	H25年度	平成26年度												
	9月～		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
見守り・服薬確認・話し相手	85	126	4	4	4	9	7	5	5	3	1	1	2	1	257
外出支援	59	217	6		7	1	10	2	6	3	5	1	6	2	325
入院中の支援	18	22													40
掃除、洗濯、整理整頓	19	99		3		2	2	1	2	2	2	2	2	2	138
ゴミ捨て	9	30		5	2	1	1	1		1		1			51
草刈り・草むしり・庭木伐採	11	43	3	5	6	11	5	9		2				1	96
買物代行	6	43	2	1	2	1		1	1					1	58
大工仕事、修理修繕		17	1	2		1		1		1	1	1		1	26
趣味の農作業支援	3	11	3	3	2	3		2	2		1		1	2	33
自治会行事代理（草刈り・立会等）	1	9	3			2									15
その他（ペットの餌やり・手続代行等）	9	15	2					1					1	2	30
	220	632	24	23	23	31	25	23	16	12	10	6	12	12	1069

生活支援を実践したサポーターの意見

* 良かった点・嬉しかった点 *

- ありがとうございます、またお願いしますと感謝の言葉を聞くと、とても嬉しい。
- 見守りに行った人が、日増しに元気になっていたのが嬉しかった。
- 技術もないシプロでもない私がした事でも、大変喜んでくれて嬉しい。
- 草刈りは大変だけど、美しくなった景色を見ると達成感がある。

* 困った点・今後の課題 *

- こんなお手伝いでいいのかなと気の毒に思ったり…複雑です。
- 自分も歳なので、今後は段々と活動が負担になっていくのではないかなあ。そうなると困るなあ。
- トイレ掃除など、どこまでお手伝いしていいものか迷います。
- 作業時間がはっきり分からないので、実際に活動してみたら思った以上に時間がかかる時がある。
- 丁寧に作業したいけれど、長引くと料金が上がるし、早く済ませようとするすると雑になってしまうので、加減が難しいです。



生活支援を利用した会員の意見

* 良かった点・嬉しかった点 *

- 1、2時間の短時間で頼めるからいいわあ。
- 一人暮らしやけん、本当に助かってます。
- 気の毒に思うくらい良くしてくれるんで。
- 知っている人が来てくれたから、頼みやすかった。今後の事を考えて、アドバイスもしてくれて、とても助かった。
- 誰かを雇おうと思っても、なかなか人はおらんけんなあ。お願いできる場所があるのは助かるんで。
- 自治会の作業に代理で出てくれるのが、大変ありがたいです。
- 具合が悪くなった時に助けてもらって、一人暮らしでも、安心して暮らせるなと思いました。できるだけ自分の事は自分でできるように日々がんばります。

* 寄り合い場・広場に来た感想 *

- いつでも自分の都合の良い時に気軽に寄れるので助かります。
- みんなでおしゃべりするのが楽しいわあ。
- リラックスして過ごせて、気が安まります。家にいるみたい。
- 土足で上がれるのが嬉しいなあ。
- りんどうに行けば誰かがいるという安心感があって、本当にありがたいです。
- 地区のサロンよりも広い範囲の人と交流ができて、いろんな人と友達になれるので、楽しいです。

* 生活支援や寄り合い場の今後の課題 *

- 楽しくお話しできるけれど、話した事が他の人にも伝わって噂になっているようです。安心して何でも話せる人がいてほしいです。
- 行きたくても遠くて行けれんけんなあ。近くにあるといいなあ。
- 一度使うと良さが分かるだろうけど、最初は使い方が分からんけんなあ。
- 遠くまで外出支援で行けるといいなあ。



* くらサポ担当支援員の仕事

- 会員登録をしてもらう際は、活動する側でも利用する側でも、必ず面談をし、顔を合わせてお話をします。
- 生活支援の依頼があった際に内容を聞き、支援をするサポーターや、活動日時等を調整し、面談や現地確認を行います。
- サポーターが初めて生活支援に携わったり、面識がないお宅に支援に行く際は、同行して補助します。
- 必要に応じて、ご家族や掛かりつけの病院、介護保険を利用されている場合は、ケアマネさんとも相談します。
- 事業委託を受けた場合など、行政等関係各所との折衝、連絡調整をします。

* 支援員として心掛けていること

- 活動の主体はサポーターであり、コーディネーターは後方支援者。サポーターの自主性を引き出せるように支援します。
- 事務仕事は後回し。会員さんと顔を合わせて話をする時間を大切にしています。
- 良い事は地域でも広めて欲しいですが、くらサポ内での擦れ違いを地域に持ち帰る事がないように…
- 時には、言い辛い事を言わないといけない事も…

* 今後の取り組み・課題 *

○暮らしのサポートセンターとしての課題

- 自主運営…何でも行政に依存するのではなく、自分たちでできる事、連携していきたい事、自分たちだけでは解決できない事などを整理していく。
- くらサポ間の連携…独自性を持ちながらも、「暮らしのサポートセンター」という一つの団体として、協働していく。
- 会員の募集…担い手自身が高齢化している事、他団体と兼任している人が多い。
- 地域住民としてできる活動…専門職でもない資格もない住民が、どこまで支援できるか。でも、地域で馴染みのある住民同士だからこそ、できる支援もある。

○くらサポと他団体との連携

- それぞれの特性を活かし、連携して地域課題の解決を図る。※生活課題実態調査の活用方法

こうなったらいいな！みんなで支えあう地域づくり

医療・介護 専門職によるサービス



- ・入院、通院治療
- ・介護保険サービス
(通所、訪問サービス)



- ・入院中の支援
(買い物、一時帰宅)
- ・退院後の支援
(服薬確認、見守り)

暮らしのサポートセンター

* 会員同士の助け合い (中学校区単位)

- ・継続した人材育成
- ・生活課題実態調査
- ・地域の課題、要望の把握
- ・足りないサービスの創出
→有償生活支援サービスの確立
中学校区単位でのサロン実施
寄り合い場の運営



地域だけでは解決できない課題を一緒に考えて、やりがいのある住民主体の活動を展開

- ・連携、協働
- ・お互いの長所、短所を補い合う

行政



- ・各種事業の推進
- ・公的サービスの総合調整
- ・地域活動の支援 など

「みんなで見守る」 地域の輪



住まい

地域の中での助け合い

* 地区社協を核とする日々の活動 (小学校区単位)

- ・分館、地区館、集会所での活動
- ・自治会、隣保班
- ・地区行事の企画、実施
- ・敬老会、配食
- ・見守り、声掛け、話し相手

- 民生委員
- 福祉委員
- 自治会長
- 老人クラブ
- 食推
- 愛育保健推進員



市全体の大きな課題 移動手段の確保

- ・公共交通機関との連携 
- ・無償運送
- ・買い物バス、コミュニティバス
- ・生活支援の一環としての外出支援

地域包括支援センター 「つるかめ」

- ・地域ケア会議
- ・相談対応
- ・サービスのコーディネート
- ・地域活動の支援、ネットワーク
- ・認知症対策



社会福祉協議会

- ・地域福祉の推進
- ・ボランティア育成
- ・いきがいサロン
- おしゃべりサロン
- ・地区社協の活動支援



連携

各種団体・機関など

- シルバー人材センター
- ボランティア団体
- 保育園、幼稚園、学校
- 駐在所、商店

離れて暮らすご家族

公益財団法人

さわやか福祉財団

とにかく現場、地域の声！

そこから始まる私達の取組み！

ご清聴 ありがとうございます。

仙北市(大づかみ方式)

第1回 平成27年10月26日 「目指す地域像」共通理解

第2回 平成27年11月24日 「SCと協議体の役割」

協議体の構成員

第3回 平成28年1月22日 「協議体の選出」





第3回研究会

協議体の選出 (1月22日)



協議

「協議体、生活支援コーディネーターの選出について」(80分)

進行 研究会 会長

来年度 市民への啓発フォーラムを検討している

第2回生活支援体制整備事業実施研究会グループワークのまとめ		《協議結果》
	【課題1】「目指す地域像」の実現に向けて、第1層協議体の構成員について絞ってみましょう。	【課題2】生活支援コーディネーター(SC)の具体像をあげてみましょう。
1グループ	●社協●民生児童委員●包括支援センター●地域運営体●老人クラブ●建設業協会●消防団●健康づくりの団体 ※第2層協議体 9つの地域運営体	1. 第1層協議体構成員 ○社会福祉協議会 ○消防署 ○警察署 ○郵便局 ○地域運営体 ○民生児童委員 ○ボランティア団体 ○建設業協会 ○婦人会 ○ケアマネージャー ○老人クラブ ○子育て世代の団体 ○シルバー人材センター ○NPO団体 ○地域活動に熱意のある方(個人)
2グループ	●PTA●婦人会●老人クラブ●地域運営体●町内会長●建設業協会●商工会●社協福祉委員●NPO団体●民生児童委員●社会福祉法人●社会福祉協議会●ボランティアグループ●行政OB(公務員)●民間看護事業所●保健師●ケアマネージャー●警察署●消防署●防犯協会●郵便局●新聞配達業者●交通機関	
3グループ	【公共関係】●消防署●警察●生涯学習関係●包括【団体】●ボランティア団体●PTA会長●婦人会【地縁】●地域の人望のある人●地域運営体代表●自治会【福祉】●看護師●社会福祉協議会●民生児童委員●子育て団体●愛仙●介護支援専門員●認知症サポーター【共同】●商工会●シルバー人材センター地区代表●建設業協会●大工組合●葬祭センター関係者●JA女性部●郵便局員	
共通点	社会福祉協議会、消防署、警察署、郵便局、地域運営体、民生児童委員、ボランティア団体、建設業協会、婦人会、ケアマネージャー、包括、	○ // ○ //
共通ではないが、検討してみよう。	健康づくりの団体、社会福祉委員、町内会、NPO団体、社会福祉法人、行政OB、民間看護事業所、保健師、新聞配達業者、交通機関、消防団、生涯学習関係、自治会、地域の人望のある人、看護師、子育て団体、愛仙、認知症サポーター、愛仙、シルバー人材センター、大工組合、葬祭センター関係者、JA女性部、老人クラブ、PTA、商工会	2. 生活支援コーディネーター ○保健師OB ○検討継続

生活支援コーディネーター・協議体の設置

～住民参加による助け合いの地域づくりに向けて～

柏崎市福祉保健部介護高齢課
地域包括支援班 金子保宏



柏崎市の高齢者に関する状況

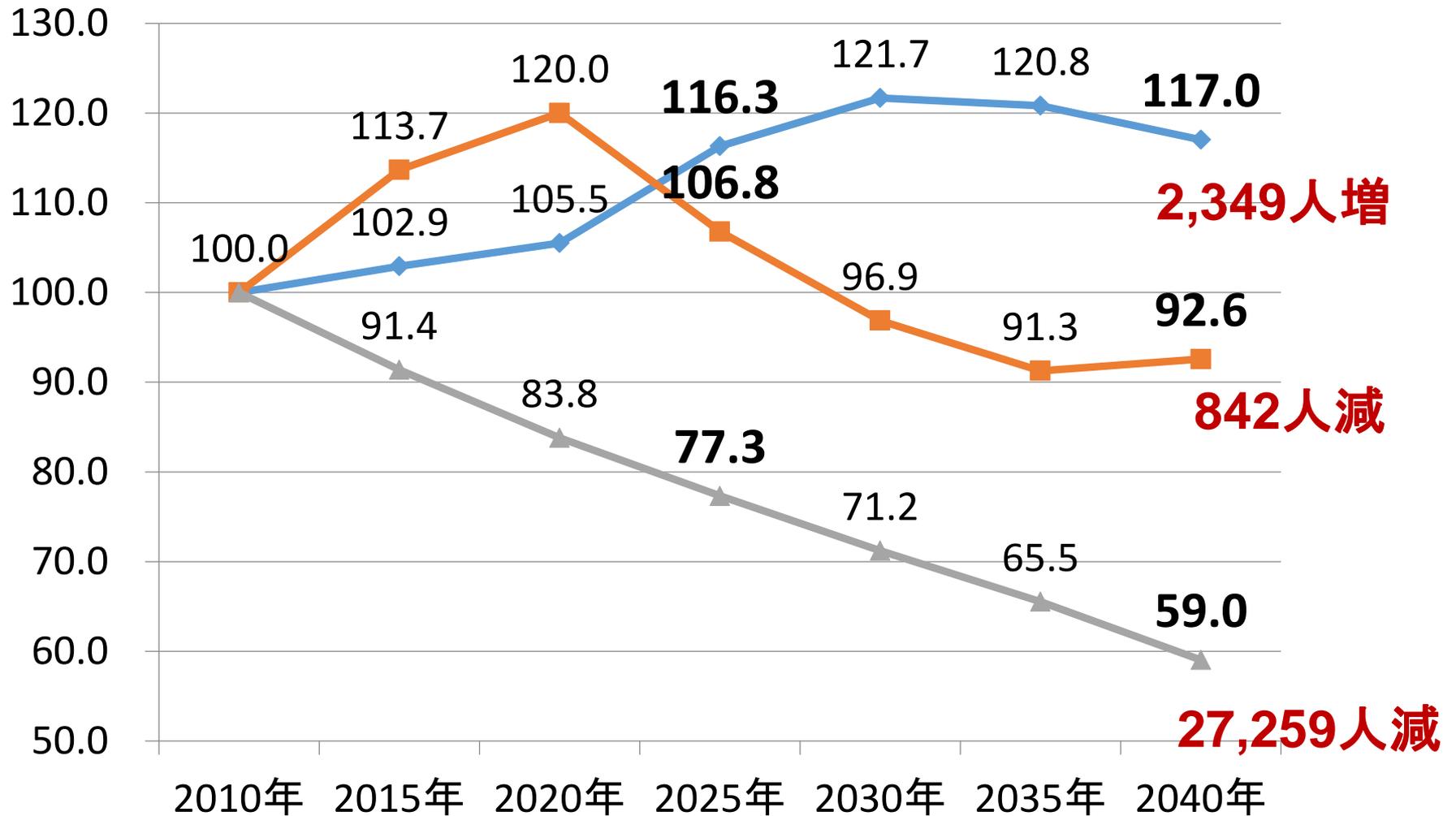
H27.3.31現在



- 人口: 87,857人
- 高齢者数: 26,716人
(高齢化率: **30.4%**)
- 要介護認定者数: 5,465人
(認定率: **20.5%**)
- 高齢者のみ世帯: 7,356世帯
(総世帯の**21.2%**)
- 日常生活圏域: 5圏域
- 地域包括支援センター: 7箇所
(全て委託)

柏崎市の人口動態予測

◆ 75歳以上 ■ 65～74歳 ▲ 64歳以下



資料 国立社会保障・人口問題研究所(H25.3月集計)

取組のきっかけ～研究会の立ち上げ

介護保険、福祉などの既存サービス
だけでは立ち行かなくなる...

地域包括ケアシステム検討会

関係機関への聞き取り調査の実施

生活支援サービスの充実に関する研究会

生活支援サービスの充実に関する研究会

平成27年3月から12月までに、計6回開催

- ① 生活支援サービス等の地域資源の把握
- ② 目指す地域像の検討、共有
- ③ 助け合い活動の意義の理解
- ④ 生活支援コーディネーター・協議体の役割等の理解
- ⑤ 柏崎市における生活支援コーディネーター・協議体の在り方、候補者の選出

住民参加に向けた取組

- **大づかみ方式**による人選
行政から地縁組織やNPO等の分野ごとにキーパーソンに成り得る人材に向けた声かけ
- 地区担当保健師、地域包括支援センターに**地域で活躍している人**を推薦してもらう
活動状況や分野のバランスを考慮し、参加を呼びかける

柏崎の目指す地域像とは？

地域の現状と課題から、何が不足しているのか？

人口減少・
一人暮らし
の増加

気がるに
集える場が
ない・来ない

相談の場が
ない、
知らない

空き家・
更地増加

町内の
コミュニケーション
不足

支える人材
の不足

交通が不便
(買物、受診)

柏崎の目指す地域像

さいげない
見守り!

近所の見守り
がある

お互いさまの
近所づきあい

互助の意識

助け合いの雰囲気
社会の仕組み

若い世代から

集う場、
悩みを言える
場がある

生活の支援

交通・送迎
外出に困らない

拠点となる場

男性が集う場

生きがい

買物、医療

場に来ない人も!
集う以外も!

H27.11月 「地域での支え合いを考えるフォーラム」開催

- 生活支援サービスに関する研究会のメンバーから**有志**を募り、**開催実行委員会**を構成
- 一般市民、関係機関から**約300人**が参加

<プログラム>

第1部 基調講演『地域の助け合い活動をどう広げるか』

講師：村田幸子氏（元NHK解説委員、福祉ジャーナリスト）

第2部 パネルディスカッション

『生活支援を担う助け合い活動の広げ方』

コーディネーター：村田幸子氏（基調講演講師）

パネリスト：吉田建夫氏（よろんごの木代表） 品田美好氏（荒浜地区民生委員・高齢者運動サポーター）

金子規子氏（柏崎市福祉保健部介護高齢課地域包括支援班係長（保健師））

アドバイザー：河田瑛子氏（支え合いの仕組みづくりアドバイザー）

<参加対象> 助け合い活動に関心のある一般市民、NPO・ボランティア団体、民生委員・児童委員、社協、介護保険事業所、行政、地域包括支援センター、その他どなたでも参加できます。



フォーラムの様子



- 参加者アンケートでは、**72%**の方が助け合い活動に「参加してみたい」または「取り組んでみたい」と回答！

協議体メンバー候補者

- ・ **民生・児童委員** ・ **高齢者運動サポーター**
- ・ **健康推進員** ・ 地域コミュニティ組織代表者
- ・ 柏崎市老人クラブ連合会 ・ よろんごの木
- ・ NPO法人 地域活動サポートセンター柏崎
- ・ さわやか福祉財団インストラクター
- ・ 柏崎市シルバー人材センター
- ・ 柏崎市地域包括支援センター
- ・ 柏崎市社会福祉協議会 ・ 柏崎市介護高齢課

生活支援コーディネーターの活動拠点と役割

基幹型くらしのサポートセンター

- ・コーディネーター活動拠点
- ・集いの場の運営
サロンやカフェなど
- ・ネットワーク構築
協議体や情報交換会など



町内会、老人クラブ等と連携した助け合い活動の創出



NPO活動の充実

コツコツ貯筋体操等
未実施地区への働きかけ

地縁組織の充実



助け合い活動ネットワークの構築

助け合い活動に関する
住民への普及啓発

担い手育成

地域型サポートセンター支援

くらしのサポーター養成

第1層の協議体の開催
地域ケア会議への出席



第2層の協議体の設置



デイホーム、たのむ手バンク